



人生の転機

たかひ けん
高樋 憲
くろいし
黒石市長(青森県)



着物の似合うまちづくりへ(筆者)

政治信条

私は昭和33年5月3日憲法記念日に生まれました。名前は憲法記念日から分かりませんが、「憲」と名付けられました。祖父は青森県議会議員、黒石市長として働かせていただいたこともあり、平成7年急きょ青森県議会議員に出馬することになり、青森県議会議員5期、第77代青森県議会議長、そして黒石市長3期目を務めさせていただいています。この世に生を受け、「憲」という名前をいただいたことから政治へ導かれていたのかもしれませんが。

私の政治の師は、祖父高樋竹次郎です。未来を見据えた政策に全力で取り組み、そして実現する政治家でした。この強い意志を引き継ぎ市政に取り組んでいます。

実は、県議会議員一期目の途中、40歳で市長選挙に出馬し、大敗した経験があります。これから何をすればいいのか悩んでいた時に、たまたま稲盛和夫氏の盛和塾との出会いがありました。稲盛和夫氏は京セラ

の創業者であり、国内通信の自由化を目指し、KDDIを設立、日本航空(JAL)の再建に尽力しました。日本の企業経営者の人材育成のために盛和塾を立ち上げ、世界の経営者に

稲盛哲学を広めました。私は、盛和塾での稲盛氏講演はもちろんですが、中坊公平氏のご講演を聴く機会もありました。爾来お二人の考え方を基本に行動しています。昨年8月24日稲盛和夫氏のご逝去いたしました。心からご冥福をお祈りいたします。稲盛氏を失ったことは、日本国、あるいは世界にとって大きな損失です。今後稲盛哲学を享受した盛和塾生をはじめ、世界のリーダーが志を引き継ぎ、世界の平和と幸福を実現すべくご活動いただきたいと考えています。

稲盛哲学は、人間として最もベーシックな道徳、倫理をベースとしています。このことは、政治行政が一番大切にしなければいけないことです。利他の精神で高い目標を持ち、市民の物心両面での幸せを追求するために何をしなければいけないのかを市職員と一緒に、追い求めていきたいと考えています。職員には常に、六つの精神を大切にするように言っています。「誰にも負けない努力をする」「謙虚にして驕らず」「反省のある毎日を送る」「生きていくことに感謝する」「善行、利他業を積む」「感性的な悩みをしない」です。これを心にとめて行動することで、より良い地域社会が実現できることと考えています。

孤独の楽しみ方

私は、52歳で待望のバイクの免許を取得しました。若い時は、両親の反対、結婚後は妻の反対で断念していましたが、51歳の時に咽頭に悪性腫瘍が見つかり、手術をすることにになりました。幸い13年が過ぎ、根治することができましたが、告知されたときの衝撃は今でも忘れません。なぜ自分かと思うのと同時に、まさに交通事故にあつたような気持ちでした。しかし現実を直視し、受け止め、生かされている人生を楽しみながら大切に生きていこうと考え、家族の理解の上で、バイクツーリングを楽しんでいます。コロナ禍で控えています。年に1度北海道にツーリングに行っています。北海道のバイクツーリングはお勧めです。興味のある方はぜひチャレンジしてみてください。ある首長に日々孤独な環境で



バイクでストレスを発散しています(筆者)



江戸時代から保存されている「こみせ」

過ごしているのに、プライベートな時間く
らい孤独を味わわないほうが良いのではと
言われたことがあります。政治で働かせ
ていただいている以上孤独を楽しみ、味
わっていききたいと思っています。

よみがえる黒石の宝ムツニシキ

せっかくの機会ですので、黒石市の紹介
をさせていただきます。本市は、青森県の
中央に位置し、昭和29年に1町4村が合併
し、誕生しました。現在の人口は3万
1000人で、東北自動車道黒石ICを擁
し、空港や新幹線駅へのアクセスにも優
れ、豊かな自然と豊富な温泉や「リンゴ」

「米」^{きみか}「黄美香メロン」で知
られている城下町です。
国の伝統的建造物群保存
地区に選定されている
「こみせ」と呼ばれる木造



中野もみじ山の紅葉

アーケードが、風情あるまち並みを感じさ
せ、紅葉の名所として親しまれている「中
野もみじ山」では、滝と溪流が望め、四季
折々にその美観を楽しんでいただけます。
そして、平成30年に復活したすし専米
「ムツニシキ」も黒石が誇る宝の一つであり
ます。数十年前、ムツニシキは味の良さか
ら多くのすし屋や料理店で使われ、幻の米
と言われていました。しかし、倒伏しやす
く、収量も少ないことから、徐々に作付け
されなくなりました。近年、パンの消費が
増え、米の消費は減る中、用途別に个性的
な米が求められるようになりました。そし
て、主食用と差別化を図り、すし専用とい
う付加価値を持ったムツニシキ復活へ動き
始めました。地元若手農家の皆さんに栽培
を依頼し、スタートしましたが、やはり栽
培はとて難しいムツニシキ。最初は生産
者により品質のバラつきがあり、すし職人

からレベルが低いという厳しい意見もいた
だきました。その後、生産者のたゆまぬ努
力と農業関係者のご協力で、年を追うごと
に品質が向上し安定生産できるようにな
り、見事に幻の黒石米が復活いたしました。
現在は、国内だけでなく海外からも評
価をいただけるようになりました。特徴は
「ほのかな甘み」「粘りの少ないあっさり感」
「しつかりした米粒の存在感」です。ネタを
引き立たせる味と食感がおすしのシャリに
ピッタリというのが、他の米にはない復活
したムツニシキです。機会がありましたら、
ぜひ黒石を訪れ、堪能していただけれ
ばと思います。



(左から) 若手農家佐藤氏、筆者、鮎中本(香港)店主中本氏